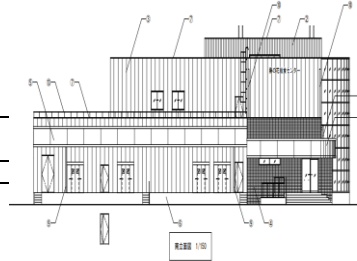


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	江南市新学校給食センター整備等事業	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県江南市小杖町鴨ヶ池109番、109番1、142番、165番、213番、219番1、353番、355番、391番、430番	構造	S造
用途地域	用途地域 指定なし、防火地域 指定なし	平均居住人員	380 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年3月16日
敷地面積	15,520 m ²	作成者	大飼 和行
建築面積	3,050 m ²	確認日	2024年3月22日
延床面積	4,092 m ²	確認者	福島 弘也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超+ ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 78%</p> <p>③上記+②以外の 78%</p> <p>④上記+ 78%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.1</p>
LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.6</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.1</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>21.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.6</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 江南市新学校給食センター整備等事業

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1	開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2。	3.0	3.0	0.40	-	-	-
2	界壁遮音性能		5.0	3.0	0.40	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-
1.3 吸音								
床、天井に吸音材を使用している。								
4.0								
0.15								
3.6								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1	室温	窓システムSC:0.29、U=3.32(W/m2K)、外壁その他: U=0.80(W/m2K)。	0.3	2.1	0.35	-	-	-
2	外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-
3	ゾーン別制御性		3.0	4.0	0.25	-	-	-
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3.0								
1.0								
0.20								
3.0								
1.0								
0.30								
2.1								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1	昼光率	[昼光率]=3.091。	0.2	3.8	0.25	-	-	-
2	方位別開口		0.3	4.2	0.30	-	-	-
3	昼光利用設備		3.0	5.0	0.60	-	-	-
3.2 グレア対策								
1	昼光制御	ブラインドに庇を組合せてグレアを制御。 照度が500lx以上1000lx未満。	0.3	3.0	0.40	-	-	-
3.3 照度								
3.4 照明制御								
3.0								
4.0								
3.0								
3.0								
0.25								
3.8								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1	化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	0.2	4.0	0.25	-	-	-
4.2 換気								
1	換気量	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	0.5	4.0	0.50	-	-	-
2	自然換気性能		3.0	4.0	1.00	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮		3.0	3.3	0.30	-	-	-
4.3 運用管理								
1	CO ₂ の監視	全館禁煙としている。	3.0	3.0	0.33	-	-	-
2	喫煙の制御		3.0	4.0	0.33	-	-	-
0.2								
5.0								
0.20								
3.0								
5.0								
1.00								
4.0								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1	広さ・収納性	CAT5eの配線を使用している。	0.4	3.1	0.40	-	-	-
2	高度情報通信設備対応		0.4	3.6	0.40	-	-	-
3	バリアフリー計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性								
1	広さ感・景観 (天井高)	リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。	0.3	2.6	0.30	-	-	-
2	リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-
3	内装計画		3.0	4.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計	3.0	3.0	3.0	0.30	-	-	-
2	維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50	-	-	-
0.3								
3.3								
0.31								
3.3								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	0.4	3.8	0.48	-	-	-
2	免震・制震・制振性能		3.0	4.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1	躯体材料の耐用年数	給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)。	0.3	2.9	0.33	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	3.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	2.0	0.23	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	3.0	0.09	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	3.0	0.08	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	4.0	0.15	-	-	-
0.3								
3.0								
2.9								
0.33								
3.3								
0.19								
3.3								
2.1								
3.0								
3.0								
0.20								
3.0								
3.0								
0.20								
3.0								
4.0								
0.20								
3.0								
3.0								
0.20								
3.0								
3.0								
0.20								

3 対応性・更新性			0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高:4.7m。	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			0.1≤[壁長さ比率]<0.3。	3.0	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		事務所:床荷重:2900N/m ² 、工場:床荷重:4500N/m ² 。	3.0	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		電気配線が配管内とラック上に設置されますので、仕上げを故障させず、更新・メンテナンスができます。 通信配線は空配管内に設置されます。	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.37	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.74。	3.0	5.0	0.23	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		手動の開閉窓を使用している。	3.0	4.0	0.13	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0.67。	3.0	4.3	0.44	-	-	-	4.3
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:複層ビニル床シート 断熱材:ポリスチレンフォーム	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGSとOAフロア使用している。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率78%	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自 適切な台数の自転車置場(バイク置場含む)及び駐車場に加えて、荷捌き車両の駐車施設も確保している。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。	-	4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリストを満たしている項目が一部である。また、広告物照明は行っていない。	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

江南市新学校給食センター整備等事業

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:21.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 江南市新学校給食センター整備等事業

計画上の配慮事項	
総合	<p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>開口部遮音性能:T-2。 床、天井に吸音材を使用している。 ブラインドに庇を組合せてグレアを制御。</p>
Q2 サービス性能	<p>CAT5eの配線を使用している。 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。 階高:4.7m。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>建物の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている</p>
LR1 エネルギー	<p>BPI_m=0.74。 BEI_m=0.67。 手動の開閉窓を使用している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロア使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。</p>
その他	<p>特になし</p>